

経営比較分析表（令和4年度決算）

福岡県 北九州市

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	-	1
その他発電所数	料金契約終了年月日	FIT・FIP適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和15年8月31日 北九州市民太陽光発電所	令和15年8月31日 北九州市民太陽光発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
九州電力株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H30	R01	R02	R03	R04
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	2,223	1,913	1,993	1,837	2,098
合計	2,223	1,913	1,993	1,837	2,098

年間電灯電力量収入（千円）	FIT・FIP以外	FIT・FIP	合計
	-	83,157	83,157

基金への積立の有無…無	剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）
一般会計への繰出しの有無…無	
その他の有無…無	
剰余金については、大規模修繕や施設障害など不測の事態に備えて留保している。	

分析欄

1. 経営の状況について

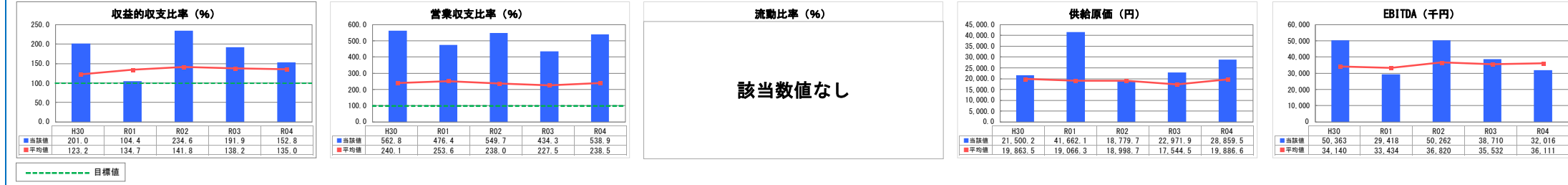
○収益的収支比率（152.8%）
前年度比較（R3年度-R4年度）において、数値は低下している。これは前年度と比べ、R4年度の売電収入は増加（+11,463千円）したが、それ以上に支出において一般会計への繰出金（市民還元事業）が増加（+19,685千円）したことから、支出に対する収入の割合が減少したためである。数値は100%を維持しており、現在の経営状況は安定している。

○営業収支比率（538.9%）
前年度比較（R3年度-R4年度）において、数値は改善している。これは前年度と比べ、R4年度の売電収入が増加したためである。数値は100%を大きく上回っており、現在の経営状況は安定している。

○供給原価（28,859.5円）
前年度比較（R3年度-R4年度）において、数値は増加している。これは前年度と比べ、R4年度の支出において一般会計への繰出金（市民還元事業）が増加（+19,685千円）したためである。

○EBITDA（32,016千円）
前年度比較（R3年度-R4年度）において、数値は減少している。これは前年度と比べ、R4年度の売電収入は増加（+11,463千円）したが、それ以上に支出において一般会計への繰出金（市民還元事業）が増加（+19,685千円）したことから、支出に対する収入の割合が減少したためである。

1. 経営の状況

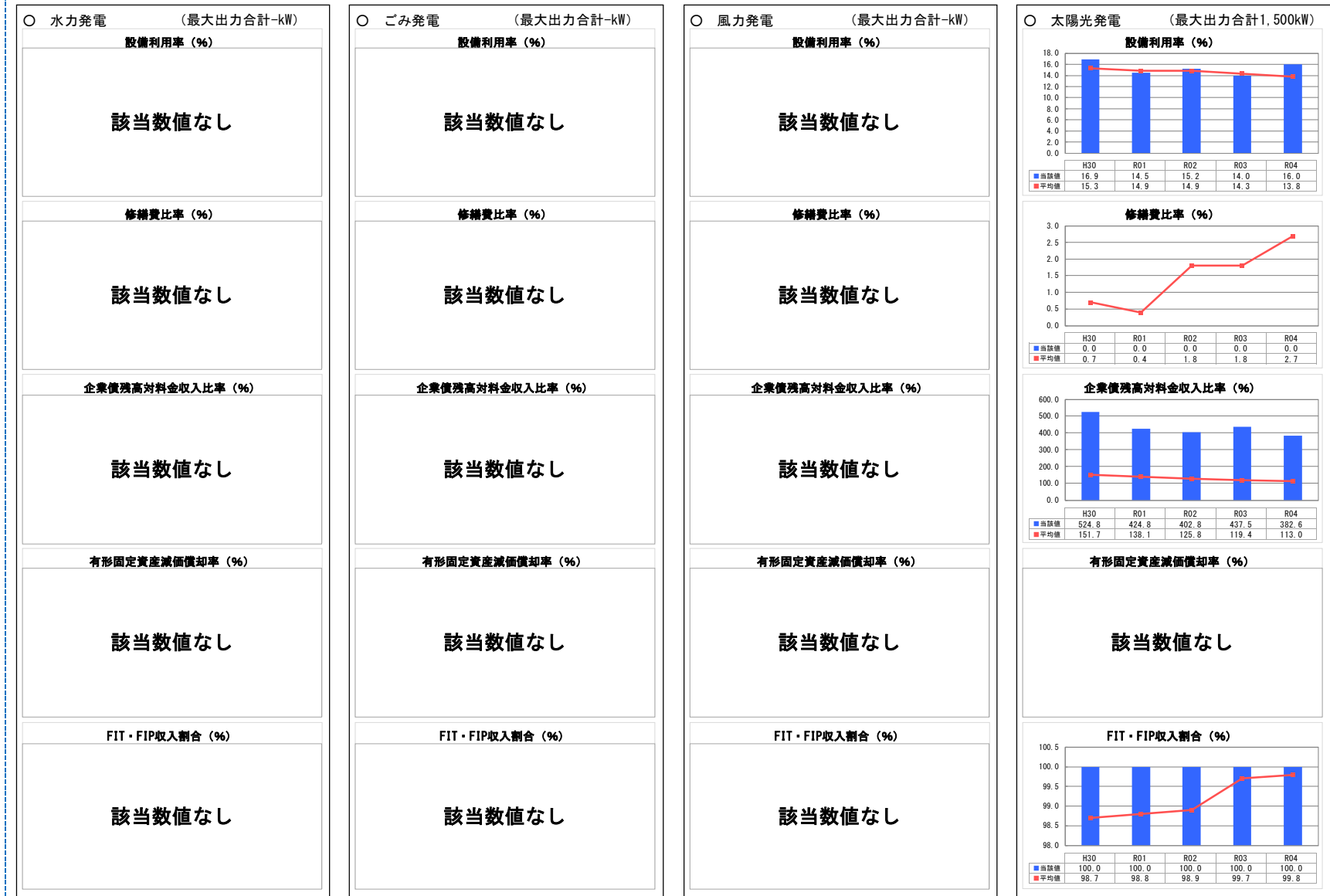


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

太陽光発電所の経営リスクとして、経常的な収入が売電収入のみであることから、天候や発電施設の障害による発電量の低下が、発電事業の収益に大きく影響することが挙げられる。

現状においては、剰余金の確保も順調に進んでおり、地方債償還費用は固定価格買取制度の調達期間内（H24年度～R15年度）で確保できるよう制度設計していることから、大きな経営リスクとなるものではない。

また、本発電所は管理委託しており、現在のところ大規模な修繕が発生していないため、修繕費比率は0%となっているが、大規模な修繕が生じた場合においても、現在の売電収入の推移及び剰余金額を考慮すると、大きな経営リスクとなるものではない。

全体総括

今後も現在の安定した経営を継続し、地方債償還費を確保したうえで、発電設備の大規模障害等に対応するための剰余金を確保していくことが必要である。

なお、固定価格買取制度の調達期間後（R16年度以降）の事業の在り方については、今後、電力料収入の変動リスクも踏まえて検討する予定である。

※ 平成30年度から令和4年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、FIT・FIP収入割合については、令和4年度の団体数を基に平均値を算出しています。